

(公開学習Ⅱ) 小学校第6学年1組 体育科(保健) 学習指導案

授業者 吉田ひろみ(T1)

浦田 文久(T2)

小学校 6年1組教室

1 単元名 病気の予防 ～生活習慣病の予防～

2 授業構成

(1) 教師と教材

本単元は、新学習指導要領の次の内容に位置づけられている。

保健領域の内容

(3) 病気の予防

ウ 生活習慣病などの生活行動が主な要因となって起こる病気の予防には、栄養の偏りのない食事をとること、口腔の衛生を保つことなど、望ましい生活習慣を身に付ける必要があること。

本単元は病原体や環境、体の抵抗力や生活行動等の要因によって病気になることを理解させ、健康に生活するには食事・運動・休養などに留意して体の抵抗力をつけたり、予防接種で免疫を作ったりすることが必要であることを捉えさせることをねらいとする。また、日常生活でよい生活習慣を身につけることが、将来、生活習慣病の予防につながることを理解させ、健康な生活をしていくための実践力を身につけさせたいと考えた。多くの児童は、これまでに病気にかかった経験やテレビ・新聞等からの情報を通じて、さまざまな病気についての多少の知識はもっていても、病気そのものの特徴、原因や予防方法についての知識は十分ではないと思われる。

そこで本時は、生活習慣病の事例をもとに健康課題を見つけさせたり、健康に生活していくための方法について考えさせたりしながら、病気の予防についての理解が深まるようにしたい。そして、子どもたちが自分自身の生活を振り返ることによって、主体的に生活習慣の改善に取り組もうとするような授業を構成することとした。

(2) 子どもと教師

本校健康教育部会のテーマは、「学びを創り楽しむ健康教育」である。児童が興味関心をもって保健学習に取り組み、学んだ知識をもとに健康な生活ができるような実践力を身につけていく授業をどのようにつくっていくかを考えながら、研究を進めていくことにした。そのためには、養護教諭の意図や視点を生かすことが大切と考え、担任と養護教諭とのT・Tによる授業を行うことにした。児童をよく知る担任と、専門的な知識や保健室の機能を生かした情報を与えることのできる養護教諭が連携をとりながら授業をすることによって、児童の学びが深まり、生きる力へとつながっていくことをめざしている。

本学級は、保健学習を継続して行うことを通して、これまでの学校生活の中で得られた知識の根拠を見出すことに興味を持ち始めている。また、手あらいやうがいなど、習慣として行っていたことの理由を理論的に学ぶ面白さに気づき始めている。ただ、そのことがすぐに自分の生活に結びついているとは言い難い状況がある。保健学習では、グループ活動を多く取り入れ

ている。グループで話し合いをしながらねらいに迫っていく学習方法は、受け身ではなく主体的に学んでいくことができる。付箋を用い、まず自分の意見を出し合い、それを話し合いの中でグルーピングさせ、よりよいものに高めていく学習過程を経ることで意欲的に学ぶことができる。教師から一方的に話を聞く学習よりも自分たちで主体的に学んだ方が子どもたちのものとなっていく。また本時は、事前に自分たちで調べる活動を取り入れた。課題に対し、調べ学習を通して興味関心を高めたり、正しい知識を身につけたりするためである。そして、事例の検討をしたり生活習慣危険度チェックをしたりしながら自分の生活を振り返り、自己の健康課題をしっかりと捉えさせ、その予防方法を考えさせたい。さらに実践化に向けて生活習慣改善カードを作成し、家の中に貼ることで家族の協力を得ながら、生活習慣の改善に向けて行動できるよう働きかけたいと考える。

(3) 子どもと教材

毎日元気に過ごしている児童にとって、病気は人ごとのように考えがちである。その意識を変え、自分の生活に向けさせることで、人ごとではなく自分の健康を守るために今からすべきことがあることに気づかせたい。

そのために本時は児童の興味関心をもたせる手だてとして、視覚に訴える掲示資料や事例としての絵本の活用を考えた。そして、児童の思考を揺さぶるような教師の発問や、グループでの話し合いにおける友だち同士の意見交換など、新しい気づきや知識を獲得するプロセスを組み込んだ。次に、知識・理解を定着させるための手だてとして、前時の学習で使用した生活習慣病の予防方法の資料を見ながら復習したり、本時のねらいや重要語句を掲示したりすることを考えた。そして、思考力や判断力を深める手だてとして、事例をもとに、健康課題や生活習慣病の予防方法等をグループで話し合いながら考えさせる活動を考えた。また、生活習慣病を自分自身の問題として捉え、その予防のためにはどのように行動すべきかをしっかりと考え行動させるために、生活習慣アンケート結果や生活習慣危険度チェックができるワークシートや生活習慣改善カードを活用することにした。

3 単元の目標

- ・日常経験している病気に関心をもち、その起こり方や予防について意欲的に調べるとともに日常生活での病気の予防に努めようとする。
- ・日常起こっている病気とその要因を関係づけて考えようとする。
- ・病気が起こる要因や病気の予防のしかたについて理解する。

4 学習計画（全8時間）

第1次 病気はどのような原因で起こるのだろう。（2時間）

第2次 病原体がもとになって起こる病気は、どのようにすれば予防できるのだろう。（1時間）

第3次 生活習慣病の予防方法について知ろう。（2時間）

第1時 生活習慣病について知り、予防のしかたについて考えよう。

第2時 生活習慣病を予防するためには、自分は何に気をつけたらよいか考えよう。…**本時**

第4次 たばこには、どんな害があるのだろう。（1時間）

第5次 こどもは、なぜお酒を飲んではいけないのだろうか。（1時間）

第6次 薬物乱用は、どんな害があるのだろう。（1時間）

5 本時の学習について

(1) 本時目標

自分の生活を見直すことを通して、食生活や運動や睡眠などの健康課題を見つけ、主体的に生活習慣の改善に向けた目標を立てることができる。

(2) 期待される児童の様相

A 事例やアンケート結果をもとに自分の生活の健康課題を見つけ、その課題解決に向けての目標および具体的な改善点を考えることができる。

B 自分の生活を見直して健康課題を見つけ、課題解決に向けての目標を立てることができる。

(3) 本時の展開

学 習 活 動	教師の支援	
1 事例を通して、生活習慣病の予防の仕方を考える。 ・「フレッチャーさんの大発見」という本の話聞く。 ・事例を通して健康上の問題は何かを考えたり、病気にならないためには、どのように生活していけばよいのかをグループで考える。 ①このままの生活を続けるとはフレッチャーさんはどうなるのだろう。 ②フレッチャーさんの健康上の問題はなんだろう。 ③フレッチャーさんが病気にならないためには、ふだんからどのような生活をするべきだったのだろう。 ・ワークシートにまとめて発表する。 ・まとめの話を聞いて、生活習慣病の予防方法について理解する。	T 1 養護教諭 ◎主人公の健康上の問題や病気にならないための生活の仕方についてグループで考えさせる。 ◎視覚に訴える掲示資料を用い、不適正な食習慣や運動不足等について確認させ、病気の予防のためには食事・運動・睡眠が大切であることを理解させる。	T 2 担 任 ◎本の中のいくつかの場面の絵をもとに話をしながら、主人公の生活の様子について理解させる。 ◎意図的指名をして、健康上の問題や病気の予防方法について発表させ、理解が深まるようにする。
生活習慣病を予防するためには、自分は何に気をつけたらよいだろう。		
2 生活習慣アンケート結果より、6年生児童の食事・運動・睡眠の実態を知り、自分の生活はどうであるかを振り返り、生活改善の方法を考える。	○生活習慣アンケート結果より、食事・睡眠・運動の健康上	○生活習慣アンケート結果より、食事・運動・睡眠に

	の問題が視覚的にわかる資料にして掲示する。	ついでの問題点に気づかせるように発問の仕方や説明の仕方を工夫する。
3 自分の日常生活を振り返りながら、将来、生活習慣病にかからないための方法について考える。 ○ワークシートで自分の生活の様子を振り返り、生活習慣病危険度チェックを行う。 ・食事について ・運動について ・その他 ○自分自身のよくない生活習慣を認識し、その内容と自分にとっての生活習慣病の予防方法を、ワークシートに書いて発表する。	◎ワークシートの記入方法について説明する。 ◎生活習慣病危険度チェックや自分にとっての生活習慣病予防方法がきちんと記入できているかどうかを確認する。また、理解が不十分な児童については、わかりやすく説明し、具体的な予防方法が書けるようにする。	○ワークシートの記入がきちんとできているかどうかを確認し、理解が不十分な児童には、わかりやすく説明する。 ◎自分の生活習慣をふまえ、生活習慣病予防のために、具体的な改善点を書けている児童を意図的指名して発表させる。
4 本時の学習をふまえ、自分の生活習慣の改善点を家族に知らせるカードを作る。	◎毎日の食事・運動・睡眠等の生活習慣に関する具体的な改善点をカードに記入させ、家族にも協力していただきながら実行にうつすことができるようにする。	